

今後の行政サービスのあり方を考える県北地域懇談会

地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)の取り組み



大館アメリコ市



五色湖(山瀬ダム)

1. 社会課題に対応したインフラ保全へ注力

①大館市の概要 (令和7年12月末)

- 人口: 64,164人
- 世帯数: 30,939世帯
- 面積: 913.22km²

②当市の人口形態

- 人口: 毎年千人減少
- 高齢者: 約4割
- 出生数: 222人/年 (直近3箇年平均)

③膨大なインフラ

- 道路: 約900km
- 橋梁: 442橋
- 河川: 356km

→ 市民一人が、市道1.4m・普通河川6mの保全を担う現実に直面

④群マネモデル地域
◎全国で11件 (合計40地方公共団体)

- 垂直連携地域
 - ・和歌山県: 1県1市3町
 - ・広島県: 1県2町
- 水平連携地域
 - ・幕別町: 2町
 - ・貝塚市: 1府8市4町
 - ・養父市: 3市2町
 - ・宇陀市: 1県1市3町
 - ・益田市: 1市2町
- 単独取組地域 (多分野連携)
 - ・秋田県大館市
 - ・滋賀県草津市
 - ・広島県三原市
 - ・山口県下関市

⑤包括エリア図

	R6~R8実施中 比内地域、十二所地区ほか
	R7~R9実施中 田代地域、下川沿地区ほか
	R8~R10実施予定

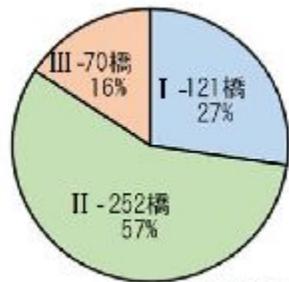
2. 喫緊課題は橋梁と道路舗装補修のスピードアップ

《日々の暮らしや産業を支える道路環境を堅持》

○橋梁の判定区分ごとの施設数割合

- ・橋梁長寿命化修繕計画 → 道路メンテナンス事業活用
- ・JR跨線橋や長大橋を先行補修 → 全体の進捗率低下

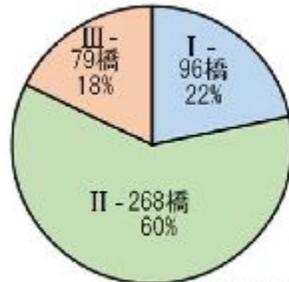
2019年度（1巡目）



IV判定0橋



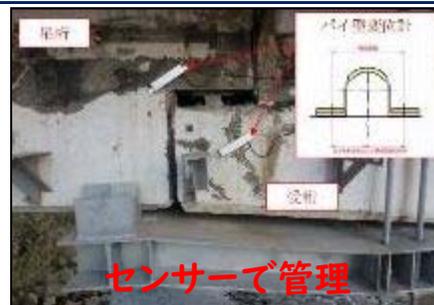
2023年度（2巡目）



IV判定0橋

○老朽化が著しい橋梁への対応

- 扇田大橋: 築85年(2015~2017年、補修工事)
- ・ゲルバーヒンジ部にせん断ひび割れ
- 落橋防止対策施工後、モニタリング監視を継続
- 昨年、民家が連なる左岸の築堤が完成
- 橋梁の掛け替えを視野に関係機関へ相談中



○低温・凍結・凍上災害への対応



○激変する気象へ総力で除排雪実施



3. 注力事例のご紹介 (道路点検DXと舗装補修の試験施工)

①道路点検DX

- GLOBAL-EYEZによる道路点検 (スマホで録画・記録)
- ➡点検結果をシステムでAI解析 (集約結果を補修へ活用)



- 本技術は、国土交通省 NETIS登録技術
- ➡道路パトロールと路面点検が同時に実施可能
- ➡可視化に加え、振動による弊害も測定、評価

実用性と汎用性を高め、サービス向上へ

②面的舗装補修

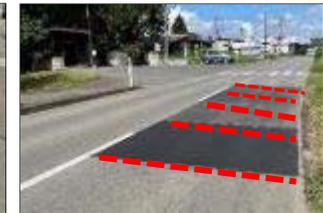
- 新材料・新工法で舗装補修を試験施工
- ➡JV構成企業の本社やグループ企業が協力

試験施工 ➡ 経過観察 ➡ 考察・検証
➡ 最適方策を精査後、実証エリア拡大

柔軟性と強靭性を
兼備する新素材

樹・マンホール周辺

4種類の合材で施工



(大館南地域JVで施工)

- 従来手法の補修、修繕では資金も工期も限界
- ➡現地の状況に相応しい材料、工法を幅広く試験
- ➡機材や人手も地元で手配できる方策を実践中

損傷が著しい舗装の耐久性や延命効果を期待

- 上記システムで道路点検した結果、ひび割れ率が40%以上を占める「早期に補修すべき道路」が約25%に達している現状を改善
- 「面的表面処理」の試験施工 ➡延命や予防保全効果を調査研究中
- 現場条件とライフサイクルコストを考慮した舗装補修の在り方を模索
- ➡ 予防保全型管理 + 延命措置 (スラリー状の材料で面的舗装補修)
- ➡ 損傷が著しい舗装へ、一定規模の投資 (修繕・補修・改良)



4. 群マネの実践発表会を開催（多様な方々140名参加）



○開会挨拶

・大館市長 石田 健佑

・大館市建設業協会 会長 平和建設(株) (代) 菊地 建一

○基調講演 東京大学大学院 堀田 昌英 教授

○政策紹介 国土交通省 総合政策局

公共事業企画調整課 調整官 岩館 慶多

○実践報告

・大館南地区JV さくら建設(株) 取締役 木次谷 大盛

・大館西地区JV 佐藤建設(株) (代) 佐藤 志津子

・ニチレキグループ(株) 技術研究所 フェロー 前川 亮太

・秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科2年 石垣 瑞月・鈴木 大斗

・大館市建設部土木課 石川 大祐・武田 和也

○講評 秋田職業能力開発短期大学校 校長 中村 雅英

石田大館市長



菊地会長



岩館調整官



木次谷取締役



佐藤社長



前川フェロー



石垣さん・鈴木さん



石川・武田技師



中村校長



5. 「包括的民間委託」のエリアと業務内容を拡大中

○：実施業務（仕様規定） ◎：実施業務（性能規定）

施設分類	業務の内容		R4～R5	R6～R8	R7～R9	R8～R10
			試行	大館南地域	大館西地域	大館東地域
全般	マネジメント		○	◎	◎	◎
	窓口					
	巡回		○	◎	◎	◎
道路 (法定外公共用財産を含む)	補修	舗装・穴埋め、道路構造物、側溝、カーブミラー	○	◎	◎	◎
		道路案内板、道路照明				
	清掃	路面、側溝浚渫、各種施設	○	◎	◎	◎
	路肩草刈		◎	◎	◎	◎
	街路樹剪定・防除			◎	◎	◎
	雑木枝切り・伐採		○	◎	◎	◎
河川	雑木枝切り・伐採			◎	◎	◎
街区公園	補修	遊具など				
	樹木の剪定・防除	各公園の樹木、桜など			◎	◎
	草刈				◎	◎
下水路	浚渫					◎
	草刈					◎

維持管理業務を全て「性能規定」とし、民間事業者の創意工夫やノウハウを最大限発揮できる制度設計

○一番の成果は、事業者が管理者の視点で業務を遂行

エリアと業務内容を順次拡大！



6. 当市の群マネの第二フェーズ（目指す姿）

多分野連携を軸に垂直・水平連携の充実を図り、更なる市民サービス向上へ

現在の「群マネ 多分野連携」

- ①事業者の束 建設共同企業体の結束
- ②技術者の束 本社グループ企業の参画
- ③庁内の束 各部署が連携強化
- ④地域の束 学校や地域と協働で清掃
- ⑤住民の束 舗装欠損の補修へご協力



+

目指す「群マネ 垂直・水平連携」

- 住民や利用者は、管理者がどこであるかは関係ない
- ①国との連携 除排雪の同時施工、新技術導入指導
- ②県との連携 道路巡視や除雪などの相互協力拡大
- ③広域で連携 北秋田市・鹿角市・小坂町との連携拡大
- 流域治水の概念で、インフラ全体を保全
- 部分最適ではなく、全体最適を適える制度設計へ



現在の秋田県と大館市の道路ネットワークの協働連携（除雪・巡視など）

業務内容	管理者	施工者	路線名	延長
除雪	秋田県	大館市	主要地方道「白沢田代線」など4路線	2.7km
	大館市	秋田県	市道「御成町片山根下戸線」	2.9km
巡視など	秋田県	大館市	主要地方道「比内田代線」	8.4km
	大館市	秋田県	市道「扇田十二所線」	8.2km

7. 良質なインフラが暮らしを支え利用者の安全を守る

初冬の鳳凰山「大文字」



中心市街地を東西に流れる「長木川」



多様な方々と力を合わせ
「インフラ堅持」に努めます

